

令和2年度 地域防災リーダー育成講座 「紀の国防災人づくり塾」募集案内

地域の自主防災組織、企業等の各種団体で、防災の中心的な担い手となる「地域防災リーダー」を育成するため、防災に関する知識、技術を学ぶ講座を開設します。

自主防災組織で活動されている方、企業等で防災に携わる方、これから地域で活動をしたと考えている方など、ぜひ御応募ください。

なお、本講座修了者には、「特定非営利活動法人日本防災士機構」が実施する「防災士資格取得試験」の受験資格が付与されます。（なお、防災士となるためには、別途、消防署等で実施する普通救命講習等の履修が必要です。）

1 開催日・場所

実施会場	実施日程	備考
和歌山市役所14階大会議室 (和歌山市七番丁23番地)	10月4日(日)	講義1日目
	10月25日(日)	講義2日目
	11月29日(日)	講義3日目
	12月6日(日)	防災士資格取得試験のみ (講義予備日)
	(12月13日(日))	(防災士資格取得試験予備日)
田辺市立新庄公民館1階大集会室 (田辺市新庄町2031番地の3)	11月1日(日)	講義1日目
	11月15日(日)	講義2日目
	12月20日(日)	講義3日目
	1月24日(日)	防災士資格取得試験のみ (講義予備日)
	(2月21日(日))	(防災士資格取得試験予備日)

※1 災害時等には日程を延期し、それぞれ順送りにすることとしております。

※2 延期については、下記の状況を見て県のHPにてお知らせする予定です。

(1) 講座当日の朝7時時点で、和歌山市内(和歌山会場の講座日)、田辺市内(田辺市会場の講座日)に大雨、洪水、暴風のいずれかの**気象警報**が発表されている場合。

(2) 講座当日の朝7時時点で、県内に**特別警報**、または**津波注意報**以上の津波に係る**気象警報**等が発表されている場合。

※3 新型コロナウイルス感染症の地域の感染状況によっても、開催を延期または中止する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

2 講座数

60分の講座を各日3～6講座、3日間実施します。

※実習及び一部の講座は1講座の時間数を短縮または延長して実施します。

3 カリキュラム及び講座内容

別紙のとおり

4 受講者の募集

※新型コロナウイルス感染症対策のため、例年よりも募集人数を少なくしております。

(1) 市町村推薦枠

・申請期間 令和2年7月20日(月)～令和2年7月30日(木)

・被推薦者

以下の条件を全て満たす方

- ・市町村の推薦を受けた方
- ・自主防災組織に所属している、または所属する予定の方
- ・和歌山県内に在住、在勤、在学の16歳以上の方
- ・全講座出席可能な方

※欠席があった場合は、修了となりませんので御注意ください。

・受講料 無料(ただし、防災士の資格取得を行う場合の費用は別途必要)

・推薦人数 (ア) 市 2人まで
(イ) 町村 1人まで
計39名

・会場 以下の会場にて受講をお願いします。

- 和歌山市、海草、那賀、伊都、有田振興局管内13市町⇒和歌山市会場
- 日高、西牟婁、東牟婁振興局管内17市町村⇒田辺市会場

・申請方法 申請期間内に、市町村防災担当課室から和歌山県総務部危機管理局防災企画課へ受講推薦書(別添1)を提出。なお、個人情報については、適正に取り扱い、本人の同意なしに本来の目的以外には使用しません。

・受講決定 市町村防災担当課室を通じて被推薦者に通知します。

・備考 受講希望のお問い合わせはお住まいの市町村防災担当課室へお願いします。

(2) 一般公募枠

・募集期間 令和2年8月18日(火)～令和2年8月28日(金)

(応募者多数の場合は先着順となります。早めの申込みをお願いします。)

・対象者 和歌山県内に在住、在勤、在学の16歳以上で全講座出席可能な方
※欠席があった場合は、修了となりませんので御注意ください。

・受講料 無料(ただし、防災士の資格取得を行う場合の費用は別途必要)

- ・ 募集人員 和歌山市会場 30名程度
 田辺市会場 20名程度

- ・ 申込方法 受講申込書（別添2）に必要事項を記入し、電子メール、FAX又は郵送で募集期間内に和歌山県総務部危機管理局防災企画課まで申し込みをしてください。
 なお、申込みで得た個人情報については、適正に取り扱い、本人の同意なしに本来の目的以外には使用しません。
 ※申し込みが受付でき次第、当課より確認のため10日以内にご連絡をいたします。当課からの確認がない場合は、お手数ですが再度申し込みいただくか、下記連絡先までお電話ください。

- ・ 受講決定 申込者あて当課より郵便で通知します。

- ・ 申込先（問い合わせ先）
 〒640-8585 和歌山市小松原通1-1
 和歌山県 総務部 危機管理局 防災企画課 企画班
 TEL 073-441-2271
 FAX 073-422-7652
 E-mail e0114001@pref.wakayama.lg.jp

5 修了証の授与

全講座履修した方に修了証を授与します。

6 会場へのアクセス

和歌山市会場：和歌山市役所14階大会議室

住所：和歌山市七番丁23番地 TEL：073-432-0001

<公共交通機関をご利用の場合>

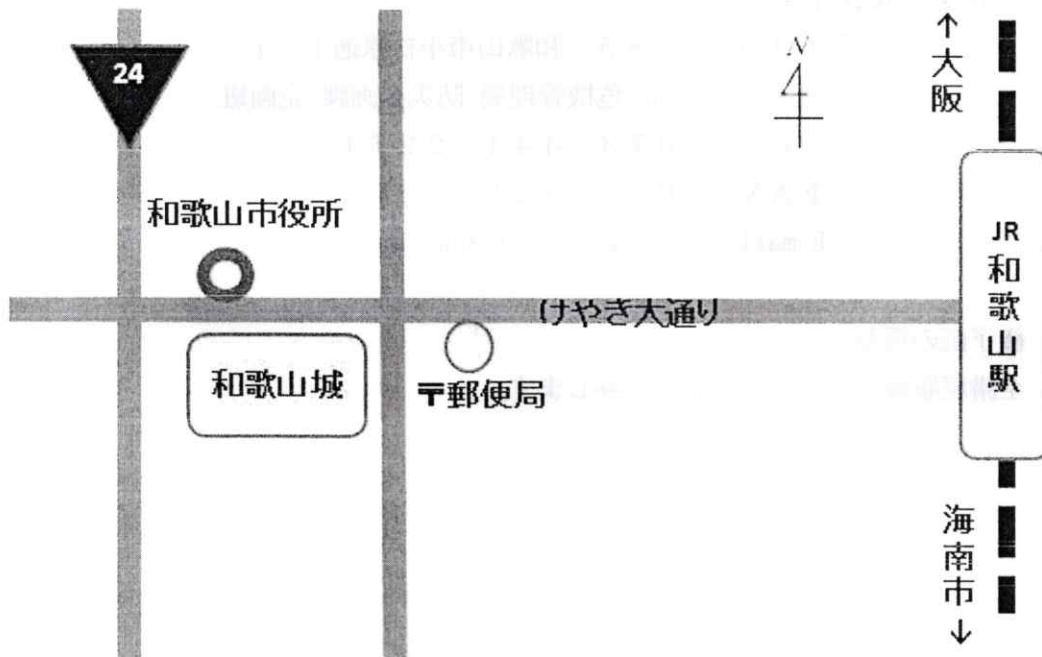
電車：JR和歌山駅より徒歩約25分

バス：JR和歌山駅中央口バスターミナル2番のりばから「市役所前」停留所まで約10分

<車でお越しの場合（和歌山ICからお越しの場合）>

和歌山ICから和歌山市街方面・国道24号線へ約20分

※会場周辺の駐車場を御利用願います。なお、駐車料金は受講者負担となりますので御了承願います。



田辺市会場：田辺市立新庄公民館1階大集会室

住所：田辺市新庄町2031番地の3 TEL：0739-22-1606

<公共交通機関をご利用の場合>

電車：JR紀伊新庄駅より徒歩で7分

<車でお越しの場合>

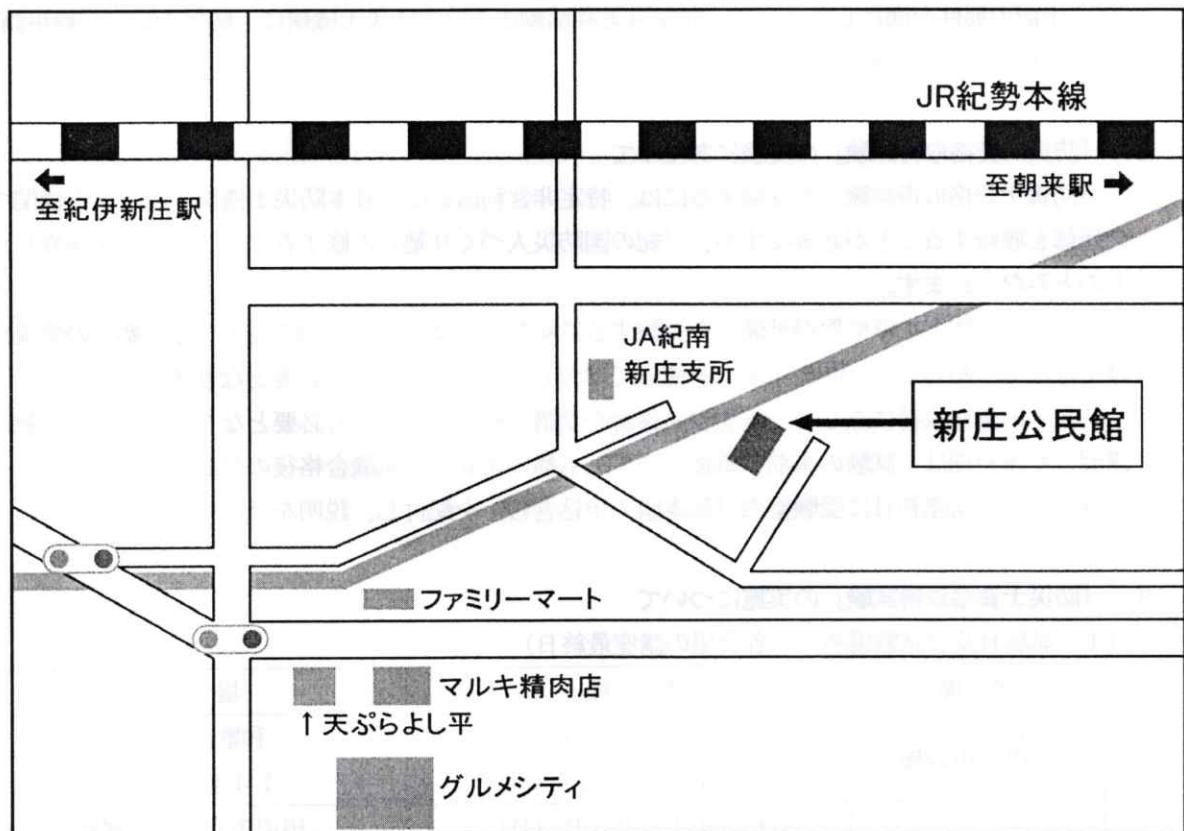
(南紀田辺ICからお越しの場合)

南紀田辺IC出口から約10分

(上富田ICからお越しの場合)

上富田IC出口から約5分

※駐車場料金は不要です。



「防災士資格取得試験」について

1 「防災士」について

(1) 「防災士」とは

「自助」「共助」「協働」を原則として、社会の様々な場で防災力を高める活動が期待され、そのための十分な意識と一定の知識・技能を有することを認められた人のことです。

(2) 「防災士」になるためには

- ・「紀の国防災人づくり塾」を全日程受講し、修了すること。
- ・特定非営利活動法人日本防災士機構が実施する「防災士資格取得試験」を受験し、合格すること。
- ・救急救命講習（心肺蘇生法とAEDを含む3時間以上）を受講し、修了すること。

（例：消防署普通救命講習ⅠまたはⅡ、日本赤十字社救急法基礎講習）

（救急救命講習の修了証は、防災士の認証登録申請時に、5年以内に発行されたものであって、かつ、その講習の発行者が定めた有効期限内のものを対象とする。）

上記の要件を満たしたうえで、特定非営利活動法人日本防災士機構に「防災士認証登録申請」を行うことが必要です。

2 「防災士資格取得試験」の受験にあたって

「防災士資格取得試験」を受験するには、特定非営利活動法人日本防災士機構が認定する機関での研修を履修することが必要ですが、「紀の国防災人づくり塾」の修了者は、この研修を履修したものとみなされます。

ただし、「防災士資格取得試験」を受験するにあたっては、「紀の国防災人づくり塾」の受講だけではなく、あらかじめ防災士教本を使って学習していただくことが必要となります。

防災士の資格取得に際して、救急救命講習を受講し修了することも必要となりますが、救急救命講習の受講時期は、試験の事前、事後、いずれも構いません（試験合格後の登録時に必要）。

詳しくは、講座初日に受験案内（教本購入申込含む）を配付し、説明を行います。

3 「防災士資格取得試験」の実施について

(1) 試験日及び試験場所（各会場の講座最終日）

会場	日程	場所
和歌山市会場	令和2年12月6日（日） 14:00～15:00	和歌山市役所 14階大会議室
田辺市会場	令和3年1月24日（日） 14:00～15:00	田辺市立新庄公民館 1階大集会室

※12月13日（日）（和歌山市会場）、2月21日（日）（田辺市会場）を、災害等による延期の場合の予備日とする。

※特定非営利活動法人日本防災士機構が試験を実施

(2) 受験対象者

「紀の国防災人づくり塾」を修了し、受験を希望する方

(3) その他の留意事項

防災士の資格取得に要する費用（各自負担）

- ・2020年度版防災士教本 3,500円（別途送料370円）
- ・防災士資格取得試験受験料 3,000円

・防災士認証登録料 5,000円 費用合計 11,870円
※受験申請時の入金額は、6,870円。試験合格後の認証登録申請時の入金額は5,000円。

令和2年度地域防災リーダー育成講座「紀の国防災人づくり塾」カリキュラム

【和歌山市会場】 和歌山市役所 14階大会議室

	第1時限目	第2時限目	第3時限目	第4時限目	第5時限目	第6時限目	
第1日	10月4日(日) 9:00~9:20 開講式:オリエンテーション	9:20~10:20 和歌山県の防災対策 県 防災企画課	10:30~11:50 和歌山県の住宅耐震化対策 県 建築住宅課 家具類の転倒防止対策 県 防災企画課	12:00~12:30 災害時のこころのケア 県 精神保健福祉センター	13:30~17:00 まち歩き(災害時要配慮者の避難支援) 県 防災企画課		
第2日	10月25日(日)	9:00~10:00 東日本大震災の津波被害のメカニズムと南海トラフ地震臨時情報 国立和歌山工業高等専門学校 教授 小池 信昭	10:10~11:10 和歌山県の洪水・土砂災害対策 県 河川課 県 砂防課	11:20~12:20 自助と共助が生命を救う ~災害に先手を打つ力と迎え撃つ力を育む~ 一般社団法人ADI災害研究所 理事長 伊永 勉	13:20~14:20 和歌山県沿岸をくりかえし襲う津波について 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 研究グループ長 宍倉 正展	14:30~15:30 災害時要配慮者の避難支援 人と防災未来センター 研究員 ビニエイロアベウ タイチ コンノ	15:40~16:40 防災と減災のむらづくり・まちづくり 和歌山大学 システム工学部 准教授 平田 隆行
第3日	11月29日(日)	9:00~10:00 災害医療 南和歌山医療センター 救命救急科 医長 島 幸宏	10:10~11:10 和歌山県の気象特性と防災情報 和歌山地方気象台 防災管理官 島田 昇司	12:10~15:40 避難所運営のワークショップ 県 防災企画課		15:50~16:20 閉講式 紀の国防災人づくり塾修了証授与	
試験日	12月6日(日)	防災士資格取得試験 (14時00分~15時00分)					

【田辺市会場】 田辺市立新庄公民館 1階大集会室

	第1時限目	第2時限目	第3時限目	第4時限目	第5時限目	第6時限目	
第1日	11月1日(日) 9:00~9:20 開講式:オリエンテーション	9:20~10:20 和歌山県の防災対策 県 防災企画課	10:30~11:30 東日本大震災の津波被害のメカニズムと南海トラフ地震臨時情報 国立和歌山工業高等専門学校 教授 小池 信昭	11:40~12:40 和歌山県沿岸をくりかえし襲う津波について 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 研究グループ長 宍倉 正展	13:40~14:40 和歌山県の洪水・土砂災害対策 県 河川課 県 砂防課	14:50~15:50 災害時要配慮者の避難支援 人と防災未来センター 研究員 ビニエイロアベウ タイチ コンノ	16:00~17:00 防災と減災のむらづくり・まちづくり 和歌山大学 システム工学部 准教授 平田 隆行
第2日	11月15日(日)	9:00~10:00 災害医療 南和歌山医療センター 救命救急科 医長 島 幸宏	10:10~11:10 自助と共助が生命を救う ~災害に先手を打つ力と迎え撃つ力を育む~ 一般社団法人ADI災害研究所 理事長 伊永 勉	11:20~12:20 和歌山県の気象特性と防災情報 和歌山地方気象台 次長 橋田 和博	13:20~16:50 まち歩き(災害時要配慮者の避難支援) 県 防災企画課		
第3日	12月20日(日)	9:00~10:20 和歌山県の住宅耐震化対策 県 建築住宅課 家具類の転倒防止対策 県 防災企画課	10:30~11:00 災害時のこころのケア 県 精神保健福祉センター	12:00~15:30 避難所運営のワークショップ 県 防災企画課		15:40~16:10 閉講式 紀の国防災人づくり塾修了証授与	
試験日	1月24日(日)	防災士資格取得試験 (14時00分~15時00分)					

※和歌山市会場は12月13日(日)、田辺市会場は2月21日(日)が予備日となります。

令和2年度 地域防災リーダー育成講座「紀の国防災人づくり塾」講座内容
和歌山市会場(和歌山市役所14階大会議室)

[別紙]

	講座名	所属等	講師名	講座概要
10月4日(日)	1 和歌山県の防災対策	県 危機管理局 防災企画課	片家 康裕	南海トラフ地震などの地震・津波対策を中心に、和歌山県が進めている防災対策の取組について説明します。
	2 和歌山県の住宅耐震化対策	県 県土整備部 建築住宅課	中 宥介	地震に備えた住宅の耐震化の必要性を説明するとともに、耐震診断と耐震改修の方法及び支援制度を説明します。
	家具類の転倒防止対策 ～家具固定のイロハ～	県 危機管理局 防災企画課		大きな地震が発生すると家具は凶器と化します。家具類の転倒による被害を減少させるため、その必要性や正しい固定方法等の知識や技術をお話します。
	3 災害時のこころのケア	県 精神保健福祉センター	蓬原由梨香	災害発生後、被災者は被災のショックや重大なストレスを受け、通常とは異なる心身の状態を経験します。被災者の心理状態の特徴と被災後の心のケアについての理解を深めます。
	4 まち歩き	県 危機管理局 防災企画課		実際にまちを歩いて、避難場所や危険な場所等の点検を行います。また、高齢者など避難時に配慮を必要とする方の被害を軽減するために、どのような助け合いが出来るのか、地域における共助の取組について考えます。
	5 (災害時要配慮者の避難支援)			
10月25日(日)	1 東日本大震災の津波被害のメカニズムと南海トラフ地震臨時情報	国立和歌山工業高等専門学校 教授	小池 信昭	東北地方で甚大な被害を起こした大津波について、その被害のメカニズムを解説します。また、南海トラフの巨大地震の想定モデルについて、なぜそのような大きな想定になったのか、その経緯を説明します。最後に、2019年3月に発表された南海トラフ地震臨時情報についても説明します。
	2 和歌山県の洪水・土砂災害対策	県 県土整備部 河川課 砂防課	辻岡 伸 西岡 恒志	和歌山県県土整備部で実施している防災・減災対策の概要や、水害や土砂災害から身を守るためのポイントについてお話します。
	3 自助と共助が生命を救う ～災害に先手を打つ力と迎え撃つ力を育む～	一般社団法人ADI災害研究所 理事長	伊永 勉	未曾有の災害が多発した平成は、防災の取組に新たな法律と制度を生み出し、ハード面での体制は強化されつつありますが、今後の大きな課題は、国民の3人に1人以上が高齢者になるという中で、今まで以上に、家庭での自助の強化と、近隣共助の活性化が望まれています。近い将来に懸念される南海トラフ地震では、行政も被害を受ける可能性があることから、地域で助け合って生き延びるための地域共助の組織化が必須であり、そのために役立つノウハウを学んでください。
	4 和歌山県沿岸をくり返し襲う津波について	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 研究グループ長	宍倉 正展	和歌山県沿岸は数千年以上もの大昔から、くり返し地震と津波に襲われてきました。その痕跡は現在でも沿岸の地形や地層に残されています。つまり、その痕跡を丹念に調べていけば、過去の地震や津波の実態を解明することが出来るのです。過去の現象を明らかにすることは、将来を予測する上でとても役に立ちます。本講座では最新の調査結果から明らかになった和歌山県沿岸の津波の歴史を紹介し、将来にどのように活かしていくべきかお話ししたいと思います。
	5 災害時要配慮者の避難支援	人と防災未来センター 研究員	ビニエイロアベウ タイチ コンノ	高齢の方、障害のある方や乳幼児など、災害発生時の避難に際して特に支援を要する要配慮者(避難行動要支援者)に焦点を当て、地域の避難対策を検討する上で重要な課題について考えていきます。
	6 防災と減災のむらづくり・まちづくり	和歌山大学システム工学部 准教授	平田 隆行	起こってしまった大震災、どうやって克服するのか…。まだ来ぬ震災、どのように備えるのか…。災害とまちづくりの歴史、阪神淡路大震災からの教訓、そして災害復興まちづくりについてお話します。阪神淡路大震災では、被災直後の街の様子を、復興まちづくりでは、城崎、奥尻、玄界島、十津川など各地の事例と問題点を紹介します。災害をねじ伏せるのではなく、自然と共に生きていく方法を「災害文化」をキーワードに考えていきます。
11月29日(日)	1 災害医療	南和歌山医療センター 救命救急科 医師	鳥 幸宏	大規模な災害などで、突然かつ同時に多数の傷病者が発生したとき、いかに効率的かつ適切な医療を提供していくのか。災害発生時の緊急医療対応についてお話します。
	2 和歌山県の気象特性と防災情報	和歌山地方気象台 防災管理官	島田 昇司	和歌山県は、頻繁に大雨による浸水害、土砂災害、洪水害が発生します。災害をもたらす自然現象の基礎知識、平成23年の台風第12号・平成30年7月豪雨・平成30年の台風第21号等による事例を紹介し、和歌山県の気象特性と防災気象情報についてお話します。また、昨年度より提供が開始された、気象情報への警戒レベル相当情報の追記についてもご説明します。
	3 避難所運営のワークショップ	県 危機管理局 防災企画課		グループごとに、避難所の運営について話し合いながら問題点や改善する点などを書き込んでいくことで、1人1人が避難所の運営や、災害への対応を考える参加型の防災トレーニング・プログラムです。
	4 避難所運営のワークショップ			
	5			
12月6日(日)	1 (防災士資格取得試験)	(日本防災士機構)		

都合により講師、講義内容が変更する場合がありますので、ご了承ください。